

CASBEE[®] あいち

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	タービン建屋7号機	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県知多市北浜町23番地	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2030年1月 予定	評価の実施日	2026年5月20日
敷地面積	501,251 m ²	作成者	恒川 真一
建築面積	2,661 m ²	確認日	2026年5月20日
延床面積	4,848 m ²	確認者	恒川 真一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.3</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>標準計算</p> <p>① 参照値</p> <p>② 建築物の取組み</p> <p>③ 上記+②以外のオンサイト手法</p> <p>④ 上記+オフサイト手法</p> <p>100% #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆☆</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0</p> <p>音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境</p> <p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 0.0</p> <p>建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム 効率的</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.8</p> <p>機能性 耐用性 対応性</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6</p> <p>水資源 非再生材料の使用削減 汚染物質回避</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1</p> <p>生物環境 まちなみ 地域性・</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.7</p> <p>地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮</p>

3 重点項目		
<p>① 地球温暖化への配慮</p> <p>N.A.</p>	<p>③ 敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>30.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>	
<p>② 資源の有効活用</p> <p>3.8</p>	<p>④ 地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p>＜外装材に使用した地域性のある材料＞</p> <p>なし</p> <p>＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞</p> <p>なし</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

② 資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③ 敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
タービン建屋7号機

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		重点項目						評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質													3.4
Q1 室内環境													-
1 音環境								-	-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル								3.0	-	-	-	-	-
1.2 遮音								-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能								-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能								-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								-	-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								-	-	-	3.0	-	-
1.3 吸音								-	-	-	3.0	-	-
2 温熱環境								-	-	-	-	-	-
2.1 室温制御								-	-	-	-	-	-
1 室温								3.0	-	-	-	3.0	-
2 外皮性能								3.0	-	-	-	3.0	-
3 ゾーン別制御性								3.0	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御								3.0	-	-	-	3.0	-
2.3 空調方式								3.0	-	-	-	3.0	-
3 光・視環境								-	-	-	-	-	-
3.1 昼光利用								-	-	-	-	-	-
1 昼光率								3.0	-	-	-	3.0	-
2 方位別開口								-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備								3.0	-	-	-	3.0	-
3.2 グレア対策								-	-	-	-	-	-
1 昼光制御								5.0	-	-	-	3.0	-
3.3 照度								3.0	-	-	-	3.0	-
3.4 照明制御								3.0	-	-	-	3.0	-
4 空気質環境								-	-	-	-	-	-
4.1 発生源対策								-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質								3.0	-	-	-	3.0	-
4.2 換気								-	-	-	-	-	-
1 換気量								3.0	-	-	-	3.0	-
2 自然換気性能								3.0	-	-	-	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮								3.0	-	-	-	3.0	-
4.3 運用管理								-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視								3.0	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御								3.0	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能								-	-	0.43	-	-	3.8
1 機能性								-	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ								-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性								3.0	-	-	-	3.0	-
2 高度情報通信設備対応								3.0	-	-	-	3.0	-
3 バリアフリー計画		独自						3.0	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性								-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)								3.0	-	-	-	3.0	-
2 リフレッシュスペース								3.0	-	-	-	-	-
3 内装計画								3.0	-	-	-	-	-
1.3 維持管理								-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計								3.0	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保								-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								0.5	3.4	0.52	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振								0.4	3.0	0.48	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								3.0	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能								3.0	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数								0.3	3.9	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数								-	3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		主要内外装はECPとして耐用年数と更新性に配慮				-	5.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				主要内外装はECPとして耐用年数と更新性に配慮				-	5.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								-	3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水:水道用ポリエチレン管、重力排水:耐火二層管を採用				-	5.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔								-	3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性								0.1	3.5	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備								3.0	3.0	0.25	-	-	-
2 給排水・衛生設備								3.0	2.0	0.25	-	-	-
3 電気設備		②		非常用発電設備、無停電電源設備、主要設備の受電二重化を実施				3.0	4.0	0.25	-	-	-
4 機械・配管支持方法				耐震クラスSを実施				3.0	5.0	0.25	-	-	-
5 通信・情報設備								3.0	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.4	4.2	0.48					4.2
3.1 空間のゆとり			②		0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		1階の階高7000を確保			5.0	0.60		3.0	-		
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.1未満を実現		3.0	5.0	0.40		3.0	-		
3.2 荷重のゆとり				4500N/㎡以上を確保	3.0	5.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17			-		
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17			-		
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11			-		
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11			-		
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22			-		
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	環境アセスを実施して景観にも配慮している		-	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			-	1.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー						-	-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	-	-		-	-	-
3 設備システムの高効率化				BEI=	3.0	-	-		-	-	-
4 効率的運用						-	-		-	-	-
集合住宅以外の評価						-	-		-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-			-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-			-	-	
集合住宅の評価						-	-		-	-	
4.1 モニタリング						3.0			-	-	
4.2 運用管理体制						3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.50		-	-	3.6
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、節水型機器を採用		3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		② 独自			-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				RC躯体に高炉セメントを使用		-	5.0	0.21		-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				下層路盤材にRC40を使用	3.0	3.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ分別可能、内装と設備を錯綜せず取り外し可能		3.0	5.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	1.00		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						-	-		-	-	
1 消火剤						-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)						-	-		-	-	
3 冷媒					3.0	-	-		-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.50		-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮			①	-		-	-		-	-	-
2 地域環境への配慮					0.5	2.5	0.50		-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			Nox、Sox、ばい煙などを基準よりも低減		-	4.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.0	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自				-	-		-	-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.33		-	-	
3 交通負荷抑制		独自				2.0	0.33		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						1.0	0.33		-	-	
3 周辺環境への配慮					0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自				3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自				-	-		-	-	
3 悪臭						-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制						-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制						-	3.0	-		-	
3 日照阻害の抑制						-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策						3.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

タービンを7号機

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.32	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:30.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 タービン建屋7号機

計画上の配慮事項	
総合	環境アセスメントの方針に基づき設計を行う。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	耐用性の高い建築材料を使用する。 非常用発電設備、無停電電源設備、主要設備の受電二重化を実施し信頼性の高い設備計画とする。 1階の階高を7000mm確保することで空間にゆとりのある計画とする。
Q3 室外環境(敷地内)	環境アセスを実施して景観にも配慮している。
LR1 エネルギー	対象外。
LR2 資源・マテリアル	躯体に高炉セメントを使用し非再生性資源の使用量削減に配慮している。
LR3 敷地外環境	Nox、Sox、ばい煙などを基準よりも低減している。
その他	